

開講期	2025年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5308 日本文化に分け入る2			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	火曜3限				
教室	J204教室				
代表教員	稲葉 有祐				
担当教員	稲葉 有祐				
テーマと到達目標	和漢の古典を縦横に駆使し、数多の伏線を仕掛ける松尾芭蕉の『おくのほそ道』は、極めて読み応えのある作品です。同書は古典紀行文の代表作として知られますが、ただし、その読解・解釈にあたっては、諸説分かれる箇所も多々見受けられるのが現状です。本授業は、『おくのほそ道』を精読・分析し、諸問題を腑分けすることで、近世期における先行文芸の享受・異化の方法、虚構化の方法を理解し、考察を深めることを目標とします。				
概要	『おくのほそ道』は、元禄2年（1689）の奥羽行脚をもとに著されましたが、それは単なる旅の記録ではありません。昭和18年に同行者曾良の随行日記が世に現れて以来、実際の旅程と『おくのほそ道』の記述との食い違いから、芭蕉の虚構化の方法が取り沙汰されていきます。では、芭蕉はいかなる構想をもって旅を作品化したのでしょうか。本授業では、平泉から終着の大垣までの章段を中心として、随行日記と比較検討しつつ、その虚構化の意図を探ります。毎時の課題・コメントは授業内でフィードバックし、問題点を共有していきますので、積極的に参加してください。深く意欲的な考察を期待します。期末にはレポートを予定しています。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	芭蕉と旅について				対面授業
第2回	『おくのほそ道』の思想的背景と構成論				対面授業
第3回	平泉 ～義経と奥州藤原氏～				対面授業
第4回	尿前の関・尾花沢 ～漢文脈の効果～				対面授業
第5回	立石寺・最上川 ～閑寂と風流～				対面授業
第6回	出羽三山 ～霊山で見たもの～				対面授業
第7回	酒田・象潟 ～『おくのほそ道』の対称構造～				対面授業
第8回	越後路 ～「荒海や」句をめぐる問題～				対面授業
第9回	市振 ～遊女の象徴性～				対面授業
第10回	越中路・金沢・多太神社 ～慟哭の意味～				対面授業
第11回	那谷・山中・別離 ～曾良の離脱～				対面授業
第12回	全昌寺・汐越の松 ～西行への視線～				対面授業
第13回	天龍寺・永平寺・福井 ～「昔物語にこそかかる風情」～				対面授業
第14回	敦賀・種の浜・大垣 ～『おくのほそ道』の終着とその後～				対面授業
第15回	総括				対面授業
成績評価の基準	授業時に指示する課題（50％） 期末レポート（50％）				
履修にあたっての留意事項	「日本文化に分け入る1」（前期）と合わせて履修することを勧めます。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	なし。		
教科書	額原退蔵・尾形佯訳注『新版おくのほそ道』（角川ソフィア文庫、2003年） その他、プリントを配付します。受講にあたっては教科書・授業資料をよく読み、問題点を整理しておいてください（予習復習・60分）。	教科書(ISBN)	978-4044010041
参考文献	堀切実編『『おくのほそ道』 解釈事典－諸説一覧』（東京堂出版、2003年） 楠元六男・深沢眞二編『おくのほそ道大全』（笠間書院、2009年） その他、授業時に適宜指示します。	参考文献(ISBN)	978-4490106251 978-4305704610